

学校 教育 目標	「あいさつ ともだち チャレンジ やくそく」 ○感謝の気持ち、思いやりの心をもって進んで声をかけられる子ども【徳】 ○人とのかわりを通して、自分や相手の良さを認め、協力しようとする子ども【公】 ○新たな学びに進んで取り組み、自分の考えを広げようとする子ども【知】【体】 ○まきまりについて自主的に考え、地域や社会の役に立とうとする子ども【関】				
	創立 45 周年	学校長 伴 英子	副校長 難波 将城	2 学期制	一般学級：13 個別支援学級：2
学校 概要	児童生徒数： 335 人 主な関係校： 中和田中学校 泉が丘中学校 和泉小学校 中和田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 〈心身ともにたくましく生きる力〉 〈課題発見・解決能力〉	中和田中学校 中和田小学校 和泉小学校 上飯田小学校	○自ら進んで挨拶ができる児童生徒 ○地域の一員として行動できる児童生徒 ○メタ認知する力・社会に主体的に貢献する態度 ○自らの心身の健康を管理し改善する力 ○主体的・積極的にいかかわろうとする姿勢、多様性を尊重する態度

中期 取組 目標	<p>○一人ひとりが夢や希望をもちながら、自己有用感を高め、主体的に社会参画する姿勢を育てます。</p> <p>1年目…自信をもって、自己表現する力を育てます。 2年目…相手を思いやり尊重する心や、自己を理解する態度を育てます。 3年目…伝え合うことで深化した自分の考えを生かして、楽しく学校生活を送れるようにします。</p> <p>○心と体の健康に向かって望ましい生活習慣を身につけ、自ら健康づくりに取り組む子どもを育てます。 3年間を通して、心と体の健康に向かって望ましい生活習慣を身につけ、自ら健康づくりに取り組む姿勢を育てます。</p> <p>○課題解決に向けて粘り強く積極的に自ら学び続ける子どもを育てます。 1年目…課題を多面的・多角的にとらえ、粘り強く取り組む力を育てます。 2年目…自らの発見した課題について継続的に取り組み、解決する力を育てます。 3年目…共感的に理解したり、合意を形成したりして「答えのない問題」に取り組む総合的な力を養います。</p>
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①学習形態を工夫し、主体的・対話的な学びのある授業を展開します。②振り返りの視点を示すことで自ら課題発見ができるようにし、学んだことを生活に生かす力をつけられるように指導します。③基礎的基本的な学力から確かな学力へとつながるよう指導します。
徳 豊かな心	①学習や特別活動、行事などの取組の中で、自分自身のよさや、集団のよさを見つけることができるようになります。②だれもが安心して生活できる学校を目指し、道徳科を中心に教育活動全体を通じて、互いのよさを見つけ、伝え合うようになります。
体 健やかな体	①子どもに育成すべき資質・能力を提示して授業を行うことで子ども一人ひとりが運動に対して「できた・分かった」を感じられるようになります。②委員会活動を中心として子ども自らが自他の健康、安全を守ろうとしたり、体力の向上を図ったり、給食を中心とした食に関する意欲を高めたりするよう努めます。
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	①日々の学習をはじめ、異学年交流、行事において児童の主体的な活動を大切に活動を行い、自己有用感、自己肯定感を高められるようにします。②キャリアパスポートを日々の教育活動に位置つけて活用することで、なりたい自分に向かって活動することができるようにします。
いじめへの対応	①いじめの実態把握及び迅速かつ組織的な対応に努めるとともに、未然防止の視点で児童が安心して過ごすことのできる環境を整えます。②教育相談機能のさらなる充実のために、SCやSSW、関係諸機関との連携のあり方について教職員研修を実施し、より効果的な連携が図れるよう努めます。
人材育成・組織運営 (働き方)	①ブロックリーダーを中心とした合同学年研の機会を生かし、効果的効率的に児童の情報共有や教材研究を行うことができるようになります。②勤務時間や休憩時間を意識して、会議や打ち合わせの効率化へ引き続き取り組みます。ICTを活用した情報共有の工夫等、円滑な学校運営に取り組みます。
地域学校協働活動	①教科横断的な視点で各学年、継続的に地域とつながりを持ち、教育活動に取り組みます。地域と学習のつながりを視点にした協働から効果的な指導・支援を行います。②学校運営協議会での情報交換の機会を生かし、よりよい地域社会を構築できるように協働していきます。③学校ホームページ等を活用し、発信の仕方を工夫します。
特別支援教育	①『合理的配慮』を適切に行うために、互いの対話から理解・納得できる方法や代替手段を考え、実行します。②教育的ニーズに応じて、より適切な指導・支援ができるように、関係機関と連携し保護者や本人に寄り添った支援を継続します。③多様性を尊重し、共に学ぶインクルーシブ教育をさらに進めます。
a14	b9
a15	b10